

平成 14 年電気学会 電力・エネルギー部門大会のご案内と論文募集 (第 2 報)

電力・エネルギー部門 (B 部門) は、会員の交流を深め活発な活動を図るため、平成 14 年部門大会を開催することになりました。つきましては、講演論文の募集について下記によりご案内いたしますので、奮ってご応募下さい。会員以外の方の発表も歓迎いたします。

会 期 平成 14 年 8 月 7 日(水)～9 日(金)

会 場 福井大学 (〒 910-8507 福井市文京 3-9-1)

論 文 論文の対象分野は以下のとおりです。情報処理・制御・計算機応用など一部でも関連するものであれば、どしどしご応募下さい。

(1)電力システム (2)エネルギーシステム (3)系統保護・機器保護 (4)高電圧・絶縁現象 (5)電線・ケーブル (6)電力用機器

論文は次の 2 種類とし、いずれも公募とします。

論文 I : 内容のまとまった密度の濃い発表ができる和文または英文の論文。発表は 1 件 30 分程度 (質疑応答を含む) の時間をとり、討議も十分できるものとします。論文 I は部門論文委員会のもとでフルペーパーの査読を経て採否を決定します。

また昨年に引き続き、B 部門誌への掲載を希望される論文は、B 部門大会と B 部門誌部門大会特集号 (平成 14 年 12 月号予定) への同時投稿として取扱い、部門誌特集号掲載に向けて迅速な査読を実施いたします。特集号に掲載予定とならなかった場合でも一般の投稿論文として部門論文委員会のもとで査読プロセスを継続させます。

論文は原則 6 ページ以内とし、6 ページを超過する場合、著者には超過分の費用をご負担願います。ページ数の上限は 14 ページとします。

論文 II : 研究速報、新製品、トピックスなど迅速に発表や紹介をしたい和文または英文の論文。

発表時間は 15 分程度 (質疑応答を含む) で、2 ページとします。

論文 I, II ともに電気学会創立 100 周年学術振興基金による表彰の対象となります。

講演申込方法 昨年に引き続き、論文 I, II ともに講演の申込登録をインターネットで行います。申込登録完了後に、論文原稿をご提出いただきます。講演申し込みの際には十分ご注意ください。

インターネットを使用できない場合に講演申込を行うときは、下記の間合せ先までご連絡下さい。

講演申込登録、原稿作成・提出の詳細要領は、次頁をご参照下さい。

講演申込期間

論文 I : 平成 14 年 1 月 15 日(火)より 2 月 25 日(月)15 時まで

論文 II : 平成 14 年 3 月 1 日(金)より 4 月 5 日(金)15 時まで

原稿提出期限

論文 I : 平成 14 年 2 月 25 日(月) (消印有効)

論文 II : 平成 14 年 5 月 10 日(金) (消印有効)

主 催 電気学会 電力・エネルギー部門

共 催 電気学会 北陸支部

その他 特別講演、懇親会、テクニカルツアーなども企画しています。

大会参加の申込み方法、プログラムなどの詳細につきましては、追って本会誌および B 部門誌に掲載いたします。

問合せ先

〒 102-0076 東京都千代田区五番町 6-2 HOMAT HORIZON ビル 8 F

電気学会 事業サービス第 2 課 電力・エネルギー部門大会担当

電話 03-3221-7313 Fax. 03-3221-3704

論文投稿に関するご質問 (査読システムの詳細など) については、下記までお問い合わせ下さい。

(財)電力中央研究所 狛江研究所 電気物理部 鳥居慎治 (大会論文委員会幹事)

電話 : 03-3480-2111 E-mail : tori@criepi.denken.or.jp

—講演申込登録および原稿作成・提出の詳細要領—

【インターネット講演申込登録要領】

1. 電気学会電力・エネルギー部門のホームページ (<http://www.iee.or.jp/pes/>) を、Internet Explorer 3.02 以降 (4.0 以降を推奨)、又は Netscape Navigator 3.01 以降 (4.0 以降を推奨) を利用して開きます。
2. 「部門大会のお知らせ」に進み、「平成 14 年電気学会電力・エネルギー部門大会講演申込」を選択します。すると、講演申込の画面が表示されますので、“新規登録”を選択します。
3. 大会コード欄に“PES 02” (半角) を会員番号欄に電気学会 (又は協賛学会) の会員番号 (半角) を入力します。電気学会に入会手続中の場合は、会員番号を 0099999 (半角) とします。
4. 登録画面が表示されますので、「入力例を見る」を参考に画面中の指示や例に従い、必要情報を入力します。使用できる文字や特殊表記等は、[付記] を参照して下さい。
5. 全て入力したら、「次へ」をクリックします。ここまでの入力内容の確認画面が表示されます。修正がある場合は前の画面に戻って修正します。登録内容の確認・修正ができましたら、「登録ボタン」をクリックします。
6. 登録が正常に受け付けられると、登録受理票が表示され、「受付番号」と「登録済内容にアクセスするためのパスワード」が発行されます。(この時点で、登録確認メールが発信されます。) 登録受理票は、今後の登録内容の確認・修正や原稿の提出 (送付) のときに必要ですので、画面をプリントアウトにより必ず保管して下さい。
7. 電子メールの受信を必ず確認して下さい。24 時間以内に電子メールが届かない場合は、ホームページ内にある FAQ をご確認ください。

- 〈注意事項〉
1. 申込締切際は、大変な混雑が予想されます。できるだけ早い時期の申し込みをお願いします。
 2. 会員番号は氏名など必須項目が入力されていない場合は登録出来ません。
 3. 会員番号や大会コードを間違えると登録出来ません。

【付記】 使用できる文字と特殊な表記の方法

1. 使用できる文字

- ・半角文字：英数字、一つのキーで入力できる特殊記号
- ・全角文字：JIS の第 2 水準までです。

(注意) 半角のカタカナは使えません。カタカナは全角を使用して下さい。英数字は半角を使用して下さい。JIS コードにない文字は使えません。また Macintosh の場合、TrueType 形式のローマ数字や丸付文字などの特殊記号は使えません、必ず JIS コードで入力して下さい。

2. 特殊な表記の方法

講演項目や講演要旨原稿の中の添字は以下のように HTML タグコード (以下の[,], _,) で入力して下さい

上付き文字：^{対象文字} 下付き文字：_{対象文字}

例：「H[∞]制御」を記したい場合には、「H[∞]制御」と入力します。

(注意) タグコードは必ず半角を使用して下さい。HTML コードと重複する半角の<, >, ", & 記号が含まれる場合は、全角で入力して下さい。

3. 講演題目や講演要旨に、図やイラストを含めることは出来ません。

【講演申込内容の確認・修正・取消要領】

登録済の講演申込内容は、受付期間中は確認・修正・取消が可能です。

1. 「平成 14 年電気学会電力・エネルギー部門大会講演申込」の画面から、“確認・修正”又は“取消”を選択します。
2. 新規登録時と同様に大会コードと会員番号を入力します。
3. 新規登録時に発行された受付番号とパスワードを半角で入力します。
4. 登録されている内容が表示されます。修正の場合は下の修正ボタンをクリック、必要に応じて修正して下さい。修正した場合には「登録ボタン」をクリックします。修正登録後、再度メールが配信されます。取消の場合は下の「取消ボタン」をクリックします。

【原稿作成要領】

大会論文集は、写真製版によって作成致します。お送りいただきました A4 版の原稿をそのままの大きさと製本致します。書き方が適切でない場合、一部が切れたりする恐れがありますので以下の説明に従ってお書きください。

添付の「見本」を参照しながら執筆下さい。さらに詳細には、電気学会雑誌平成 5 年 8 月号に掲載致しました「電気学会部門誌への投稿手引き」中の〈原稿作成手引き〉をご参照ください。なお、最新の原稿作成手引きは電気学会のホームページ (<http://www.iee.or.jp/>) にも掲載されています。

1. 原稿用紙

任意の白色の A4 版用紙を使用し、余白を上 25 mm、下 24 mm、左右各 16 mm 設けてください。

ワードプロセッサなどを利用する場合は、9 ポイント (13 級) の文字を用い、字数は片段 1 行当たり 26 字、片段 50 行、2 段組、段の間隔は 10 mm としてください。

2. 分量

論文 I は図面、写真などを含めて 1 件 6 ページ以内を原則と致します。6 ページを超過する場合は著者には超過分の費用をご負担頂きますが、その場合も 14 ページを上限と致します。大会論文集の超過ページ費用は、1 ページ当たり 5,000 円と致します。

論文 II は 2 ページ以内を厳守ください。(字数は、1 枚当り 26 字×50 行×2 段=2,600 字程度)

3. 文字の色

墨または黒インクでお書きください。タイプライタやワードプロセッサの場合も濃い黒字とってください。

4. 配置

表題などを「見本」に従って①～⑤の順序で記入後、本文を書き始めてください。

以下の説明で「何行目」などとありますのは、1 ページ 26 字×50 行×2 段を想定しております。

- ① 表題；40 字以内。1 行分 (20 字以内) の場合は、4 行目中央に記入。21 字以上で 2 行にわたる場合は 4 行目～6 行目の 3 行分の場所に適当に配置してください。
- ② 会員種別、氏名、(所属)；2 名までは 1 行に横に並べても結構です。3 名以上の場合は複数行にしてください。
- ③ 英文による表題、氏名、会員種別、(所属)；左右に 3 字分のスペースを設けてください。
- ④ 英文 Summary；論文 I のみ記入。150～200 語で、左右に 2 字分のスペースを設けて記入ください。
- ⑤ キーワード；論文 I のみ記入。6 個以内で、左右に 2 字分のスペースを設けて記入ください。
- ⑥ 本文；原則として片段 1 行 26 字の 2 段組で記入。下記の順序で整理し、章の見出しのみ 2 行分を取ってください。
章：1. ○○○○○ 節：1.1 ○○○○○
- ⑦ 文献；文献は本文末尾に通し番号をつけて一括記載し、本文中の該当部分には引用番号をつけてください。一般に公表されていない文書は文献として挙げないでください。文献は、著者名、題目、書名、巻、(号)、ページ、発行年 (月日) を記載ください。
- ⑧ 著者紹介；論文 I でそのまま B 部門誌への掲載を希望される方は、著者紹介 (顔写真と一人 133 字以内の文章) を入れて下さい。なお、著者紹介につきましては大会論文集の超過ページ費用の対象外と致します。大会論文集には著者紹介は掲載されません。

5. 本文

論文 I、II ともに日本語または英語。英語の場合は、電気学会雑誌平成 5 年 8 月号に掲載致しました「電気学会部門誌への投稿手引き」中の〈原稿作成手引き〉をご参照ください。

6. 文字の大きさ

表題と氏名は見本を参照して大きく書いてください。ワードプロセッサの場合は、1 項をご参照ください。

7. 図及び表

原稿用紙に墨または黒インクで直接記入、ないし白または青色の方眼紙に書いたものを貼り付けても結構です。

幅は 10 cm (片段) 分が基準ですが、特に重要な結果を示す図は最大 20 cm (両段) 以内で描いても結構です。

図中の文字は原則として日本語としますが、スペースが許せば英語を併記することが望ましい。

図を貼り付ける場合は、全体にのりづけせず裏面 4 辺にのりづけする。特に写真の場合は、裏面に天地を記入下さい。

図、表の表題は、日本語と英語の両方を

図 1. ○○○○○ 表 1. ○○○○○

Fig. 1 ○○○○○ Table 1. ○○○○○ とし、

それぞれ図の下、表の上に記載。図、表の番号は、それぞれの通し番号とする。

【原稿提出要領】

1. 必要書類 (下記に不足があった場合受付致しかねますのでご注意下さい。)

- ① 論文 論文 I は、原紙 1 部+A4 版コピー 4 部の合計 5 部。論文 II は、原紙 1 部+A4 版コピー 2 部の合計 3 部。
- ② 英文要旨 (Extended Summary) 論文 I で部門誌掲載を希望される方は、「電気学会部門誌への投稿手引」に従って Extended Summary を作成し、コピーを 4 部添付して下さい。
- ③ 登録受理票 インターネットで講演申込を行った際に表示される登録受理票のハードコピーに、投稿論文の著作権譲渡に関する必要事項をご記入下さい。

2. 送付先および問合せ先

〒102-0076 東京都千代田区五番町6-2 HOMAT HORIZON ビル8F

電気学会 事業サービス第2課 電力・エネルギー部門大会担当 電話 03-3221-7313 Fax. 03-3221-3704

3. 原稿の返却

送付いただきました原稿は、不採択の場合を除き返送致しません。ご了承下さい。

(参考) 今後のスケジュール予定

論文I：4月下旬 採否決定, 5月上旬 採否通知, 6月上旬 修正原稿受付締切

学会誌 5月号：大会参加申込要領掲載

B部門誌 6月号：大会セッション日程表掲載

B部門誌 7月号：大会セッション詳細, プログラム速報版掲載

【電力・エネルギー部門大会での希望セッション】

* 講演申込登録の際の「希望セッション」は、下表の技術分野の中からお選びください。なお、投稿状況により、必ずしもご希望に添えない場合がございますことを予めご了承下さい。

例えば、技術分野が「電力システム」で技術内容が「系統計画」の場合は、(A-1)となります。

<p>(A) 電力システム</p> <p>(1)系統計画 (2)系統運用 (3)需要予測 (4)系統制御 (5)電圧安定性 (6)シミュレーション技術 (7)解析技術 (8)安定度解析 (9)モデル同定 (10)潮流計算 (11)最適潮流計算 (12)電力自由化 (13)発電機制御 (14)FACTS (15)給電・監視制御 (16)電力品質 (17)高調波 (18)配電システム (19)配電方式 (20)直流送電 (21)その他関連事項</p>
<p>(B) エネルギーシステム</p> <p>(1)エネルギーシステム (2)エネルギー変換 (3)水力発電 (4)風力発電 (5)分散電源システム (6)燃料電池 (7)太陽光発電 (8)電力貯蔵 (9)環境問題 (10)CO₂対策 (11)その他関連事項</p>
<p>(C) 系統保護・機器保護</p> <p>(1)系統保護制御 (2)配電保護制御 (3)機器保護 (4)その他関連事項</p>
<p>(D) 高電圧・絶縁現象</p> <p>(1)高電圧測定 (2)雷 (3)サージ現象 (4)遮断アーク (5)アーク現象 (6)がいし (7)高分子がいし (8)混合ガス (9)その他関連事項</p>
<p>(E) 電線・ケーブル</p> <p>(1)送電線 (2)電力ケーブル(ケーブル・布設) (3)電力ケーブル(接続部) (4)電力ケーブル(試験・監視) (5)電力ケーブル(劣化・診断) (6)大容量送電 (7)その他関連事項</p>
<p>(F) 電力用機器</p> <p>(1)配電用機器 (2)変圧器(機器) (3)変圧器(絶縁・診断) (4)遮断器 (5)限流器 (6)避雷器 (7)超電導機器 (8)GIS (9)監視・診断装置 (10)その他関連機器</p>

【電力・エネルギー部門誌の掲載内容の分類】

* 論文IのうちB部門誌への掲載を希望される方は、講演申込登録の際に、「部門誌の掲載内容の分類」を下表の中からお選びください。なお、上表の希望セッションとは名称が異なりますので御注意下さい。

* B部門誌への掲載を希望しない論文Iおよび論文IIの方は必要がございません。

<p><電力システム></p> <p>b101: 電力系統計画・運用</p> <p>b102: 電力系統制御</p> <p>b103: 系統解析・シミュレーション</p> <p>b104: 系統保護</p> <p>b105: 系統監視・制御システム</p> <p>b106: エネルギーシステム</p>	<p><エネルギー変換・輸送></p> <p>b201: 送配電線・電力ケーブル</p> <p>b202: 送配電機器, がいし</p> <p>b203: 開閉保護装置, 避雷器, アーク現象</p> <p>b204: 変電機器</p> <p>b205: 超電導機器</p> <p>b206: 高電圧・雷・サージ</p> <p>b207: エネルギー変換・貯蔵装置</p> <p>b208: その他電力用機器</p>
---	--

【投稿論文の著作権について】

当大会論文集および部門誌に掲載される論文については、著者全員は、「電気学会部門誌への投稿の手引」の著作権・出版権に関する記述をご理解の上、以下の諸項にご同意願います。

- (1) 著作権の電気学会への譲渡。電子メディア化する権利、翻訳権、翻案権、二次的著作物の利用権を含む。
- (2) 論文 I への投稿論文に関しては、過去に公開されたことが無く、本質的な類似性を持つものも公開されたことが無く、かつ電気学会以外の出版物への公開を予定していないこと。
注：電気学会大会論文、研究会などの本学会主催の公開技術会合で発表されたものは本項の制約とはならない。
- (3) 他の著作物の著作権を侵害していないこと。および、著作権許諾が必要な引用については無償での転載許諾を書面で得ていること。
- (4) 内容に本質的な貢献を行った人は全て著者に含まれていること。
- (5) 必要な場合には著者の所属機関のしかるべき権限を有する人の同意を得ていること。なお、本書によって著作権の譲渡を行っても、以下の権利は著者の手元に残るものとする。

* 著作権以外の例えば特許権のような権利

* 著者が自分の業績をまとめる際にその一部分として使用すること

* 著者が営利を目的とせずに行う複製（例えば教育資料としての使用）

* その他、日本の著作権法に反しない利用

論文, 資料の作成見本

40mm

25mm

178mm

講演番号記入箇所

38mm

3行あける

① 電荷重畳法による電極上の電界計算誤差 ←左右中央に書く

9ポイントまたは13級 | 1行あける | 8ポイントまたは12級

② 正員 電気太郎 (新日電機) ←左右中央に書く

16mm

③ Electric Field Computation Errors on Electrode in Charge Simulation Method ←書く

Taro Denki, Member (Shinnichi Denki) ←書く

1行あける

A bulk power long distance dc transmission system is now under intensive study in Japan. It aims at transmitting a bulk power generated by a large capacity nuclear power plant which is directly connected to ac/dc converters without any ac load. Since the bulk power of generators of such a system is transmitted through the dc system, the ratio of short circuit capacity of ac system to dc system capacity is unusually small, and what is called harmonic instability may occur.

To analyze the instability phenomenon,……

This paper analyzes those harmonic voltage of synchronous generators which are produced by harmonic components of ac currents of the ac/dc converter. The effect of ac filter is taken into account and a possibility is demonstrated of the low order harmonic instability occurrence.

左右2字分あける

論文IIでは不要

④ キーワード: 電荷重畳法, 自動電圧調整器 (AVR), 界磁電流, スナバ

Keywords: charge simulation method, automatic voltage regulator, field current, snubber

1行あける

①. まえがき
統において, AVRのゲインおよび時定数をパラメータとして, 負荷増大による脱調である。

□AVR (自動電圧調整器) による同期発電機の界磁電流の制御は, 負荷遮断に伴う機圧上昇の抑制, 端子電圧の一定保持, さらに系統安定度向上などの面から重視されている。近年, サイリスタ励磁装置の採用と相まって, この方面の研究は活発である。特に同期機を数学的等価回路で精密に表現し, AVRやガバナを備えた系の解析は数多くなされ, その成果により系統の安定度対策は長足の進歩を遂げている。

□しかしながら, これらの解析手法で安定度問題のすべてが解決されたのではなく, なお多くの問題を今後の研究課題として残している。すなわち, 多機系統の等価集約, 負荷特性など系統に関する問題のほか, 同期機自体の機器定数とその飽和効果, 同期機の過渡時の特性など未解明な問題も多く, 数学的等価回路による表現が必ずしも同期機の振る舞いを物理的に十分に表したものに……。

□したがってAVR, PSSなどのゲインおよび時定数の設定も大筋は制御理論により, 最終的には現地……

統において, AVRのゲインおよび時定数をパラメータとして, 負荷増大による脱調である。

②. 移相器制御系を考慮した多機送電システムの安定化制御法

- (2・1) 系統の動特性式 □□N機系統において
- (i) 発電機の過渡リアクタンス背後の電圧一定
- (ii) 発電機の機械的入力一定
- (iii) 線路および機器の抵抗分無視
- (iv) 移相器制御は一次遅れ近似 (図1)

なる仮定をおき, 第i機の動特性を次式で表す。

$$\square\square M_i \frac{d^2\delta_i}{dt^2} + D_i \frac{d\delta_i}{dt} + \sum_{j=1}^N E_j E_j b_{ij} \sin((\delta_i - \phi_j)) - P_{Mi} = 0 \quad \dots (1)$$

$$\square\square \frac{d\phi_i}{dt} + \frac{1}{T_{pi}} \phi_i = u_i, \quad i=1,2,\dots,N$$

□□ここに, δ_i, ϕ_i : 同期速度で回転する基準軸と第i機□□の回転軸との相差角および最終定常時の安定平□□機□□の値, P_{Mi} : 第i機の機械的……□□

9ポイントまたは13級 | 1行あける

2段通しの表は左右165mm以内
1段のときは左右75mm以内

表1 パラメータ
Table 1. Parameters. ←表の説明は左右2字分あける。22字以内は中央に書く

表中は 7ポイント または10級	V_c (V)	β_s	r_{s2} (Ω)	C_{s2} (pF)	α	f_{r2} (Hz)	r_{c2} (Ω)	$C_0 = \frac{C_{s2}}{1-\alpha} \cong \beta_s C_{s2}$	$\theta = \omega C_0 R_c$	$\rho = \left(\frac{R_r}{R_0} + g_{m0} r_{e1} \right)$	表中の説明は原則 として英語で書く
	28	181	11.64	1.37	0.99450	2.5×10^4	10.0598×10^3	248 (pF)	0.37818303153647	116.10714008829	

24mm

1/6

←原稿用紙枚数
(青鉛筆で記入)論文IIでは不要

248mm

2行分

1字さげる

10ポイントまたは14級

1字さげる

本文は
9ポイント
または
13級

□特性多項式はその名のとおり有界次元の多項式として捉えられるのが一般的であるが、これを拡張して整級数として捉えることもできる。例えば、フィードバック要素を収束半径 R の開円板 D_r 上で、

$$\square\square F(s) = \sum_{n=0}^{\infty} f_n s^n \dots\dots\dots (2)$$

と一般化できれば、この場合の特性方程式は、

$$\square\square D(s) + \sum_{n=0}^{\infty} f_n s^n N(s) = \sum_{n=0}^{\infty} c_n s^n \dots\dots\dots (3)$$

となる。ただし、 $D(s)$ および $N(s)$ はそれぞれ伝達関数……

一方、系統事故により $e_c=0$ となると(4)式は

$$\square\square e_L' = \frac{Z_L}{Z_I + Z_L + \frac{Z_I Z_I}{Z_c}} e_I \dots\dots\dots (6)$$

となり、このとき

$$Z_L Z_I \ll Z_c \dots\dots\dots (7)$$

ならば、事故後の負荷電圧 e_L' は

$$\square\square e_L' = \frac{Z_I}{Z_I + Z_L} e_I \dots\dots\dots (8)$$

となり、(5)式に一致する。すなわち、発電電力と需要電力がバランスしているときは、系統事故があっても負荷電圧が変化しないため、電圧監視のみでは事故時に分散電源を解列することができない。

□3. 回路と動作解析

□3・1 回路構成と動作概要 図1にLC共振を用いたスナバエネルギーの回収回路を示す。この回路において、 C_a と D_s は従来どおりスナバコンデンサ、スナバダイオードであり、 D_a, L_a, C_a, D_1 は回収回路を構成する素子である。特に、 C_a はスナバエネルギーを一時蓄える重要な働きを……

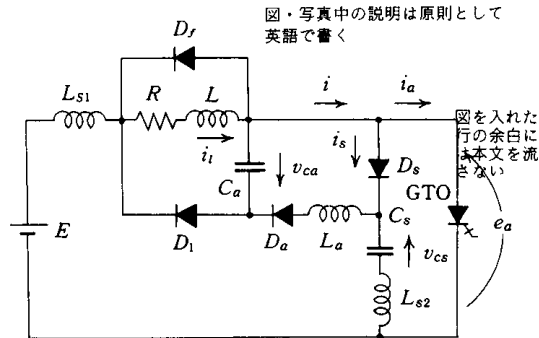
□5. 実験結果

□本論文で提案する外乱抑圧形線形適応制御系を用いたDCサーボモータのロバスト制御を立証するために、図9に示される実験システムで実験を……

素平面の実軸上に配置し、そのサンプリング時間 T は1msである。また、外乱観測器の時定数 τ_2 は1msであり、受動的適応制御による低感度補償器の τ_1 と β はそれぞれ10msと10である。実験に用いたDCサーボモータのパラメータ公称値は表2に示す。

表2 DCサーボモータのパラメータ公称値と定格値
Table 2. Nominal parameters and rated values of tested DC servo motor. 1段の表は左右75mm以内

rated output	0.8 kW	K_t	0.48 N·m/A
rated current	11 A	L	1.8 mH
rated speed	1,750 rpm	R	0.66 Ω
K_v	0.48 V·s/rad	J	$9.8 \times 10^{-3} \text{kg} \cdot \text{m}^2$



図の説明は左右2字分あける。22字以内は中央に書く
図1 スナバエネルギー回収回路

□□ Fig. 1. A snubber energy recovery circuit. □□
↓ 1行あける

□6. むすび

□本論文の特長を要約すると、次のようである。
□(1) 電流増幅器とバイパスT形LC帰還回路を組み合わせた所要増幅度の小さい電流伝送形の発振回路が高安定発振回路として適していることを提案した。……
□(5) 解析とコンピュータシミュレーションとにより、実測値とほぼ一致する理論値が得られ、各パラメータの変化の影響を把握することができた。すなわち発振周波数動率……
の意を表する次第である。また、卒業研究として本実験の一部に従事された○○○○、○○○○の諸君に謝意を表す。
(平成 年 月 日受付)
↓ 1行あける

文 献

- (1) B. Shahzadi: "Two Distinct Boundaries for Feedback Transistor Oscillators", *Electron, Eng.*, **63**, 1, 32~35 (1965-3)
- (2) 天野一夫・有竹次男・角替四郎: 「能動及び受動回路の非対称性が周波数安定度に及ぼす影響」, 昭50電気学会全大, No. 508
- (3) 長谷川他生・平井賢策・中川 徹・角替四郎: 「負性抵抗発振器の周波数安定化」, 昭53信学総全大, No. 468 ……
- (10) 駒井 実・村上次郎・大西健一: 「位置情報だけを用いたDSPによる加速度制御系」*電学論 B*, **100**, 331~338. (平3-9)

ゴシック
電気 太郎 (正員) 1934年8月9日生まれ。1957年3月横浜大学電気工学科卒業。同年新日電機(株)入社。主として高電圧装置、パルスパワー装置開発をへて、サイリスタによる無効電力高速制御装置の開発普及に従事。元パワーエレクトロニクス研究会会長。現在、同社取締役研究開発本部副本部長。工博。

願
写
真
28mm
22mm

- 論文IIでは不要
- 論文Iで部門誌掲載を希望される方